

# ミステリ読書案内

2022. 9. 8 発行元

第394号 伊藤 剛

<https://mystery-dokuan.com>

## 最近出た本の中から

最近になって出版された本の中から4冊を紹介する。いつもながら、私に興味を持っている作家の作品だが、特に豊田巧の『信長鉄道・関ヶ原を越えて!』を中心に据えてみようと考えた。鉄道ミステリのひとつ。

### 豊田巧の作品を中心に

豊田巧はゲーム制作の仕事から作家になった人で、特に鉄道関係に密着した作品作りが目を引く。講談社ノベルスから出た『警視庁鉄道捜査班シリーズ』の『鉄血の警視』も『鉄路の牢獄』も共に良い出来だった。まあ現実にはありえない話だが、鉄道を舞台にした展開の盛り上がりや迫力がある。

角川文庫から出ている『鉄警ガール』も好印象だった。ネットで調べてみるとライト系の方面ではたく

さん作品を出版しているようで、いつか本を発見したなら是非読んでみたいと思う。ゲーム作りのストーリーの面白さとキャラクター小説の魅力を兼ねたものだろうと予想する。電子書籍専用や新聞連載、雑誌連載のままになっている作品もあるようだ。

今回取り上げた作家、鳴神響一は次々新作が出てくる。他の伊与原新と柘サナカはゆっくりゆっくりペース。新しい作家の新作を心待ちしている。大作でなくてよいので、気軽に読める作品でいいので…。

### 柘サナカ『お銀ちゃん明治舶来たべもの帖』

7月にPHP文芸文庫から出た本。新しいシリーズになるのか？明治35年に開設された女子写真伝習所の三人組が主人公。「たべもの大好き」のお銀が皆を引っ張る。バナナ、ソーダ水、シュークリーム、ミルクセーキをテーマにした4話が収録された連作集。明治時代の多くの人にとっては舶来のたべものは簡単には手に入らない。何とか食べる方法はないものかと頭を捻る三人組。「写真」を職業にするための学校なので「写真よろず相談所」なるものを開いて謎集めに取り組む。当時の写真機やガラス乾板などの説明がくわしい。キャラクターとストーリー展開で読ませる作品で、ミステリ性のレベルは高くない。

### 豊田巧『信長鉄道 関ヶ原を越えて!』

6月にハルキ文庫から出た本。第311号で紹介した『信長鉄道』の続編。今回は、桶狭間の戦いの後、美濃攻略を経て一度目の上洛を果たす前後の展開。戦国時代にタイムスリップした国鉄職員・十河拓哉を中心とした組織が限られた機材を活用して生き延びようとする展開。前作後のこととして、反射炉を使った製鉄が可能になったことが大きな前進。レールを自前で作れるようになり、線路は少しずつ先へ。岐阜城、そして関ヶ原越えに、琵琶湖畔へ。C11蒸気機関車は、通常は木炭や亜炭を混ぜたもので何とか凌いでいる。戦国の世は進み、足利義昭が岐阜にたどり着き、やがて浅井・朝倉連合との戦いに。国鉄メンバーはどんな活躍が可能なのか…。

### 伊与原新『フクロウ准教授の午睡』

7月に文春文庫から出た本。元版は2015年に光文社から出た『梟のシエスタ』。改題されたもの。ある地方大学の心理学講座の専任講師・吉川の視点で描かれている。学長選挙に至るまでの学内の出来事を積み重ねていく話。連作短編のように見えるがストーリーは繋がっている。吉川が巻き込まれるゴタゴタを准教授の袋井が独自の思惑で巧妙な解決に持っていく転換が繰り返される。そして最後の山場になる「学長選挙」では…。この作品ではあまり取り上げられていないが、私は、作者の理系の学者らしい発想に魅力を感じている。

### 鳴神響一『神奈川県警「ヲタク」担当細川春奈3 夕映えの殺意』

7月に幻冬舎文庫から出た本。シリーズ3作目。これまでは「鉄道ヲタク」「温泉ヲタク」と進んできた。今回は「アニメ聖地ヲタク」。根府川駅にほど近いコテージで一酸化炭素中毒で亡くなった人物。一見すると自殺に見えるのだけれども疑わしさが残る。調べていくうちに一年前に国府津海岸で撲殺事件が起きていることが判明。捜査指揮・支援センターの班員の指摘で犯行場所がアニメの「聖地」になっていることがわかる。そこで「ヲタク担当」の春菜の出番となる。いつもながらに捜査協力員として登録してあるヲタクの人達と面談を重ねてヒントをもらうことに。アニメ関係の知識が膨大に話されるのは当然の流れ。『エヴァンゲリオン』など脇道の話に逸れていくのもお決まりのコース。出されたヒントの中から関係者を探り出す糸口を見つけて捜査に当たる春菜、支援センターの面々。「ヲタク」をストーリーの中にどう生かしていくかがこのシリーズのポイント。一気に読める。